Quarterly Report

VOL.42

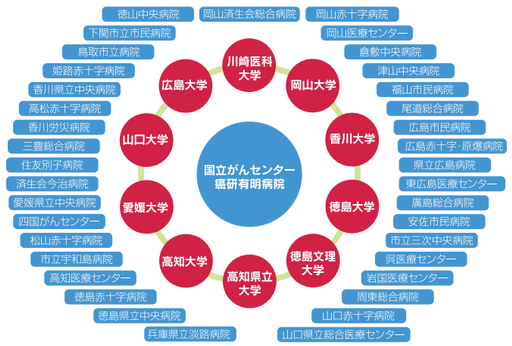
2014. Dec

Managing Office
2-5-1, Shikata-cho, Kita-ku
Okayama 700-8558 Japan
Phone:086-235-7023 Fax:086-235-7045
http://www.chushiganpro.jp/

Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第１位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等（メディカルスタッフ）の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



中国・四国全域に広がる拠点病院

組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織

:コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院

ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることができるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を連動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育（共育）と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育（協育）をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォータリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

Column

がんプロとこれからの薬剤師職能

高知大学医学部附属病院　薬剤部長（教授）　宮村 充彦

近年、がん領域における薬剤師の取り組みは、regimen管理、mixing、支持療法管理、さらに有害事象抽出、臨床研究や新薬開発、先進医療への関与、がん薬剤師外来など多岐にわたる。

一方で、薬剤師養成高等教育は、平成18年度より学部6年制に移行した。現在、その評価の時期に至っており、改訂薬学教育モデルコアカリキュラムが示された。その中で、「薬剤師として求められる基本的な資質」は、薬剤師の基本的能力として、患者・生活者本位の視点、チーム医療への参画等が求められる。また、薬物療法における薬剤師の実践的能力として、教育能力、自己研鑽、研究能力、地域の保健・医療における実践的能力等が求められる。この様な資質を「身につけて学ぶ」基本事項は、薬学基礎、医療薬学、薬学研究等の領域を、さらなる薬剤師職能の進歩を想定し、薬学臨床と称される薬剤師職能に体系づけて学ばせる。

この様な時代変遷の中、当薬剤部では、早期から、がんプロ大学院教育・研究において、患者・生活者本位の視点に立つ臨床に根差したテーマに取り組んでいる。がん薬物療法情報としての薬物動態(pharmacokinetics:PK)パラメーターは、頻回の血中薬物濃度データ、臨床検査値、臨床所見の取得が必須であり、また、使用薬剤が多岐にわたる等の問題も有り、患者にとって精神的、身体的負担が大きく、恒常的な実施が困難である。そこで、我々は、唾液・尿中に、新規バイオマーカーを見出し、測定することにより、患者負担の軽減を目指す試みを志向している。また、これらは、がんの早期発見など、がんスクリーニングに適用できると考えられる。以下に、uniqueな一例として、膀胱がん患者の尿臭気の Metabolomics 解析を挙げる。

わが国において、膀胱がんは、その標準療法である経尿道的膀胱腫瘍切除術により、膀胱温存が可能で生命予後も良好であるが、術後、膀胱内再発が高率である。また、筋層にまで至る浸潤性がんは、標準療法として膀胱全摘術・尿路変更が余儀なくされ、QOLの低下が問題となり、早期発見が重要である。このため、膀胱がん診療においては、膀胱内再発を念頭に置いた定期的な検査が必要であり、患者に負担のない方法での検査・診断が求められているが、現状では侵襲性の高い膀胱内視鏡検査や高価な画像診断が行われている。一方、膀胱がんスクリーニングに関して、これまでに犬が尿臭気より膀胱がんが識別出来る可能性があることが報告されている。(Olfactory detection of human bladder cancer by dogs:proof of principle study. Willis C. M et al, BMJ., 329(7468), 712-717 (2004).)しかしながら、臭気によるがんの判別は科学的根拠が乏しい。

そこで、当薬剤部では、膀胱がん患者の尿臭気を Metabolomics 解析することにより、膀胱がんの早期診断の確立に向けて有益な知見を得た。膀胱内視鏡検査により膀胱がんと確定診断され、膀胱全摘術または経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けた患者の、手術前及び手術後に尿を採取し、尿脂肪酸分画臭気を濃縮採取し、GC/MSを用いて解析・同定した。測定用サンプル毎に、同定した各ピークのMass total ion currentの Intensity を用いて、two-dimensional (PC1 vs. PC2) mapping を行い、患者群と健常人群のスコアプロットにおける乖離性を検討した。また、尿細胞診と対比し、本解析法の有用性を評価した。その結果、数種のPeak化合物を臭気由来成分として同定した。PC mappingでは、患者群の手術前において、健常人群との間に大きな乖離が認められた。また、Metabolomics 解析は、尿細胞診と比し、膀胱がんスクリーニングにおける優位性が示された。患者群の手術後のスコアプロットは、健常人群に近似する傾向が認められた。さらに、数種の化合物は、バイオマーカーとなる可能性があると判断した。Metabolomics 解析に必要な検体は尿だけである為、非侵襲で患者負担は小さく、多くの膀胱がん患者のQOL向上が期待できる。(Metabolomics Study on the Biochemical Profiles of Odor Elements in Urine of Human with Bladder Cancer : Biological and Pharmaceutical Bulletin, Vol.35 No.4(2012).)

今後、さらに、臨床に根差した医学・薬学研究を志向し、患者・生活者本位の視点から、薬剤師職能を拡大して行きたい。

Column

がん看護実践能力を養う講演会

広島大学大学院医歯薬保健学研究院
応用生命科学部門　老年・がん看護開発学　教授　宮下 美香

広島大学では、平成19年よりがん看護専門看護師を養成しています。平成25年度より教育課程の38単位化を行い、「がん看護高度実践看護師養成コース」として新たなスタートをきりました。がんの診断や治療が進歩する中で、患者のニーズは一層多様になり、がん看護専門看護師に求められる能力も多岐にわたり高度になってきました。しかし、がん看護専門看護師だけでは患者のニーズを満たす質の高いケアを提供することはできません。

そこで、医療チームメンバーのケア実践能力の向上を目指し、主に看護職者を対象とした講演会を開催しています。平成24年度よりがんプロフェッショナル養成基盤推進プランが始まってから開催した講演会の実績を表に示します。内容は、がんによる症状のマネジメント、がんサバイバーの就労の問題、がん化学療法看護、そして最近米国で話題のPatient Navigator、と一貫性はないかも知れませんが、どのテーマも我々が取り組むべき重要な課題であり、そのテーマを専門とされる著名な先生より最新の知識と情報を提供して頂きました。

ここで、あまり馴染みがない「Patient Navigator」について少し説明します。“Navigate”の語源はラテン語で“navi(ship) and agere(to drive)”となり、一般には「操縦する、航行する」という意味になります。Patient Navigatorの定義は、National Cancer Institute (2009), Oncology Nursing Society(2010), American Cancer Society(2013)等で述べられており、総じて「ヘルスケアシステムのバリアを克服し、タイムリーに質の高い健康・心理社会的ケアへのアクセスを促進し、標準的ながんのケアが提供されるようデザインし、患者、家族、ケア提供者へ個別的な支援とガイダンスを提供する人であり、訓練を受けた文化的に敏感な医療専門職者、法律・経済・管理の経験を有する人、あるいは、ヘルスケアに関連した課題に直面している人、同じような状況の人を助けたいと思う人」と言えます。始まりは、1990年にニューヨークにあるHarlem HospitalのDr.Freemanが行った乳がんの検診と早期診断を目的とするプログラムですが、現在では、がんサバイバーがサバイバーシップサービスと質の高いケアを得ることを目指し、タイムリーな診断・治療サービスの調整、患者のケアへの満足をモニターするためのコミュニケーション、経済的な支援の促進と書類作成の援助、移動や小児・高齢者ケアのアレンジ、フォローアップサービスへの繋がりを促進すること等を目的・役割としています(National Cancer Institute, 2009)。このようにPatient Navigatorの役割が拡大する中で、日本においてはどのような役割が必要とされるか、がん看護専門看護師の果たすべき役割は何かを検討し、導入することにより、がん患者が受ける医療やサービスの質向上に繋がることが期待されます。

今後も、我が国、世界の動きを把握しながら、看護師のがん看護実践能力を高める取り組みを通じ、がん患者への時宜を得た質の高い医療の提供に貢献できるよう努めます。

表. 広島大学　がん看護高度実践看護師養成コース　講演会開催実績

日　時	講演題目・講師	参加人数
平成25年7月18日(木) 18:00－20:00	緩和ケアと症状マネジメント 大阪大学大学院医学系研究科緩和医療学　教授　恒藤 暁 先生	48
平成26年3月1日(土) 13:30－15:30	社会で支える「がんと就労」 －医療機関や地域コミュニティができること－ 国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部長　高橋 都 先生	30
平成26年6月6日(金) 17:30－19:30	化学療法看護の基礎と実践 講演①：がん化学療法看護の質を高め、院内に広めるための取り組み がん研有明病院　副看護部長・がん看護専門看護師　濱口 恵子 先生 講演②：がん化学療法の実践とケア －副作用対策と患者・家族支援－ がん研有明病院　がん看護専門看護師　鴨川 郁子 先生	97
平成26年6月30日(月) 17:30－19:00	Patient Navigator としての看護師の役割 パーカー・アドベンティスト病院　高度実践看護師　朝倉 由紀 先生	27

Column

Mini review

切除不能進行・再発大腸がんにおける一次治療は？

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
消化器内科学　教授　高山 哲治

2007年、切除不能進行再発大腸がんに対する分子標的薬としてbevacizmab（Bev）の有効性が報告された。Bevは血管新生因子vascular endothelial growth factor（VEGF）に対するモノクローナル抗体薬であり、当時標準治療であったFOLFOX療法に対する上乗せ効果が明らかにされた（NO16966試験，ASCO）。それ以来、今日までFOLFOX（またはCapeOX）＋Bevは切除不能進行再発大腸がんの一次治療として用いられてきた。一方、cetuximab（Cmab）やpanitumumab（Pmab）などの抗epidermal growth factor receptor（EGFR）抗体薬が開発され、大腸がんに対する有効性が示された。抗EGFR抗体薬は、K-RASコドン12,13変異を認めない大腸がん（K-RAS野生型）に対して有効であり、Bevと同様にFOLFOXに対する有意な上乗せ効果が報告された。それ以来、大腸がんの一次治療はFOLFOX（FOLFIRI）＋抗EGFR抗体薬またはFOLFOX（FOLFIRI）＋Bevが用いられ、どちらを最初に用いるべきか明らかにされていない。

昨年のASCOでは、切除不能再発大腸がんの一次治療としてFOLFIRI＋BmabとFOLFIRI＋Cmabを比較検討する第III相試験（FIRE3試験）が報告された。その結果、奏効率や無増悪生存期間（PFS）には両群に差を認めなかったが、全生存期間（OS）はFOLFIRI＋Cmab群で有意に延長することが報告された（25 vs 28.7ヶ月，p<0.05）（図1）。このことから、K-RAS野生型大腸がんの一次治療としてBevではなくCmab（抗EGFR抗体薬）を用いるべきである、という考え方が広がりつつあった。

しかし、先月のESMOでは相反する臨床試験の結果が報告された。この臨床試験（CALGB / SWOG 80405）では、K-RAS，N-RASのexon2,3,4のいずれにも変異を認めない野生型の大腸がんを対象に、一次治療としてFOLFOX/FOLFIRI＋BevまたはFOLFOX/FOLFIRI＋Cmab療法を行い、OSが比較検討された。その結果、両群のOSはほぼ同様であり有意差は認められなかった（31.2 vs 32.0ヶ月）（図2）。また、FOLFIRI＋Bev群とFOLFIRI＋Cmab群の間にも有意差は認められなかった（35.2 vs 32.0ヶ月）。FIRE3試験の問題点は、主要評価項目を奏効率に設定しており、有意差の認められたOSは副次評価項目であったことである。一方、今回発表されたCALGB/SWOG80405試験はOSを主要評価項目とした臨床試験であり、この結果のほうが信憑性が高いということになり、大腸がん（RAS野生型）の一次治療は、Bev，Cmabのどちらを先に用いても良いということになる。しかし、CALGB/SWOG 80405試験では、Cmab群でCmabのFOLFOX/FOLFIRIのOSに対する上乗せ効果は得られていない。CmabのFOLFIRI/FOLFOXに対する上乗せ効果はこれまでの臨床試験で十分に証明されていることである。今回のCALGB/SWOG80405試験の発表は症例の60%を解析したものであり、今後の解析結果を待ちたい。

図1. FIRE3試験における全生存期間解析

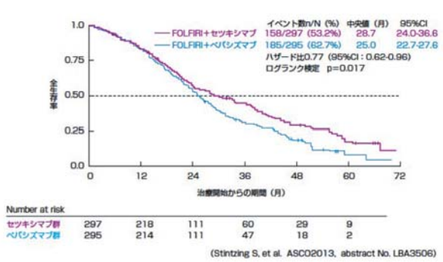
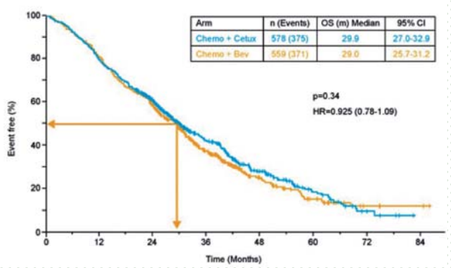


図2. CALGB/SWOG80405試験における全生存期間解析



Report

国際貢献

アジアからの招聘 ～ミャンマー医療人～

岡山大学大学院保健学研究科　教授　松岡　順治

・ミャンマーからの研修生をむかえて
・研修プログラム
・研修先からの声 ～ミャンマー医療人を受け入れてみて～
・ミャンマー医療人からのレポート

・ミャンマーからの研修生をむかえて

かつて日本の若者は勉学に飢えていた。勉学ができることをこの上なく幸せと感じていた。周りの大人もそれを助けるために身を削って環境を整えていた。それがわたしたちの国をかたちづくる源となった。

ミャンマーからの友人をみると胸が熱くなる。あの情熱はどこからくるのか？わたしたちの情熱はどこに行ったのか？わたしたちはどこへ行こうとしているのか？教えているようで、本当は教えられることのほうが多い。

がんのプロフェッショナルというキーワードのもとにこれからも我が国の若者とミャンマーの若者が大きく飛躍することを望んでやまない。

松岡先生とミャンマー医療人

・研修プログラム

日程	研修内容	担当者
8.18	挨拶、院内ツアーなど	がんプロメンバー
	谷本教授面会	谷本　光音
	臨床腫瘍回診	木浦　勝行
8.19	松岡教授面会	松岡　順治
	薬剤部	矢尾　和久
	西森先生レクチャー	西森　久和
	乳がんカンファレンス	岩本　高行
8.20	放射線外来	片山　敬久
	緩和医療ケア見学と回診	松岡　順治
	消化管検討会	神崎　洋光
8.21	内視鏡検査	神崎　洋光
8.22	口腔ケア	山中　玲子
	造血幹細胞移植	前田　嘉信
	チーム医療合同演習 講演：「肺癌のOncologic Emergency」	
8.23	チーム医療合同演習 「Oncologic Emergency」	
8.25	山本教授面会	山本　和秀
	超音波検査・超音波下RFA治療	中村進一郎
8.26	精神腫瘍外来	内富　庸介
	看護部長面会	前川　珠木
	患者支援センター	石橋　京子
	病理部	田中　健大
	血液移植カンファレンス	西森　久和
8.27	口腔ケア回診	丸山　貴之
	BCR回診	谷本　光音
	ミャンマー医療人研修報告会	
8.28	腫瘍センター	西森　久和

・研修先からの声 ～ミャンマー医療人を受け入れてみて～

研修先：血液・腫瘍・呼吸器内科学
担当者：西森久和 先生

研修内容：
原発不明がんの診断と治療について、日本におけるストラテジーを概説した後に、ミャンマーにおける現状を確認しました。そして、両国での問題点を抽出し、今後の課題について議論し、原発不明がんに対する医療の均てん化を進める方策を考えました。

感想：
ミャンマーでは日本と比べて、CT、MRIなどの画像診断設備が極端に少なく、治療に使用できる抗がん剤の種類も限られていました。しかし、その中で最適な治療方針を腫瘍内科医として決定し、施行していることを知り、感動しました。一方日本では、画像検査はもちろん、病理組織の免疫染色を駆使することなどで、原発巣を推定しますが、個別化医療につながっていることが少ないので、今後は積極的な個別化医療が可能となるための研究が必須であると強く感じました。

研修先：消化器・肝臓内科学
担当者：神崎洋光 先生

研修内容：
今回、ミャンマーからTheint Theint Win先生とYin Yin Mon先生を招き、二週間にわたり研修していただくなかで、私は大学病院施設案内、消化器内科における光学医療診療部ならびにチーム医療合同演習の際に大きく関わらせていただきました。

感想：
お二人ともmedical oncologistであるものの内視鏡を含む様々な医療機器や治療法、医療システムに興味を持たれておられました。化学療法に関しては医療費や政情の問題で分子標的薬などの使用は難しいことや病院勤務ながら夕方には個人的にクリニックを行っていることなど日本との医療情勢の違いを感じました。また、チーム医療合同演習ではがんプロの大学院生とも交流をはかっていただきました。ミャンマーとの国際交流により本邦の医療技術やシステムがミャンマーに、我々には国際人としての経験が得られるものであり、我々を含めて有意義に過ごせたのではと思います。

研修先：RFA（超音波ガイド下 ラジオ焼灼療法）
担当者：中村進一郎 先生

研修内容：
肝がんに対する超音波ガイド下ラジオ波焼灼療法の見学です。
対象とする肝がんの腫瘍径が1cm程度と小さく、超音波用造影剤を使用しながら電極を穿刺する様子をみていただきました。

感想：
肝がんを見つけるためのサーベイランスの方法、各種画像診断法の組合せによる早期肝がんの診断、治療について熱心にご質問をいただきました。
ミャンマーでは経済的な制限があり、高額な医療機器や薬剤の使用は困難な状況であるとうかがいました。
今後も、たくさんの方々と交流することで、お互いの医療環境にあった診断法、治療法について情報を共有できればと思いました。

研修先：口腔ケア
担当者：山中玲子 先生

研修内容：
抗がん剤治療中の口腔粘膜障害に対する具体的な対策について積極的に質問され、当院での対策をご紹介しました。また、当院における医科歯科連携の実際、システムについて説明しました。

感想：
日常臨床における疑問点や困っていることを、当院の研修を通じて解決したいというお気持ちが伝わりました。十分なことができたか分かりませんが、少しでもお役にたっていれば幸いです。私も、ミャンマーのがん治療や支持療法の現状について、興味深くきかせていただきました。また、英語版の説明資料等の必要性を感じました。

研修先：病棟口腔ケア
担当者：丸山貴之 先生

研修内容：
頭頸部がんセンターにおける病棟口腔ケアを見学していただいた。当科では歯科衛生士とともに手術前後の口腔内清掃、化学療法・放射線治療に伴う口腔内有害事象（口腔粘膜炎、口腔乾燥など）への対応を行っている。

感想：
頭頸部がん治療への歯科介入は日本でも珍しく、ミャンマーではないという。がん治療中の口腔粘膜炎や口腔乾燥への対応について、ミャンマーでも難渋しており、本研修が少しでも今後の医療に参考になればと思った。

・ミャンマー医療人からのレポート

Mid-west Japan Cancer Professional Education Consortium
「Cancer Medical Professionals to the Faculty Development Course sponsored by the Consortium in Okayama, Japan」

REPORT

Q1. What did you want to learn before this course?
- Patient care
- Modern diagnostic procedures & Treatment.
- Multi-disciplinary team approach practicing in your country.
- Advanced diagnostic and treatment procedure.
- Palliative care management.

Q2. What were you the most interested in after this course?
- Systematic care of cancer patients with team approach
- Chemotherapy day care unit
- Workshop on oncologic emergency cases by active participation and discussion of participants.
- Advanced endoscopic and treatment procedure in early gastrointestinal malignancy.
- Teamwork on palliative care management

Q3. Have you want to learn more?
If you answered yes, what is it?
- I want to learn your hospital management system.
- I want to learn the cancer registry system and cancer prevention program practicing in your hospital.

Q4. Is this course effect your medical care or learning of Myanmar from now on?
If you answered yes, what effect do you have?
- I can practice more discussion with other specialists & nurses regarding patient care.
- This course upgrade my knowledge and skill in managing cancer patients.
- It highlights our needs in diagnostic procedures and palliative care to get better outcome.

Q5. Were you able to practice that you had learned in this course?
If you answered yes, what effect do you have?
- Team approach
- I will practice multi-disciplinary team approach in treating cancer patients.

Q6. How are you going to take advantage for medical care in Myanmar that you have learned in this course?
- I will discuss with senior & junior colleagues & nurses for better care of patients.
- If possible, I also discuss with authorities for systematic development of patient care cancer prevention programs.
- I will share my knowledge and experience gained from your country to my colleagues for better patient care.
- I will try our palliative care management with possible resources.

Q7. If you have any comments, please state them here.
- I also want to study Gynaecological malignancies,Cancer screening programs in Japan.
- In our country, head & neck malignancies and carcinoma of the cervix stand on the top 5 malignancies. So I would to request to put these management program in next time.

Report

活動報告

愛媛 第1回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日　時：平成26年9月5日（金）　17:45～19:00
場　所：愛媛大学医学部附属病院　臨床第2講義室
参加者：37名

教育講演
座長　愛媛大学大学院医学系研究科　臨床腫瘍学
教授　藥師神 芳洋
■「B型肝炎対策ガイドライン遵守率向上への取り組みと評価」
愛媛大学医学部附属病院　薬剤部
主任（がん専門薬剤師）　河添 仁

特別講演
座長　愛媛大学大学院　消化器・内分泌・代謝内科学　教授　日浅 陽一
■「B型肝炎～免疫抑制療法・化学療法による再活性化と重症化」
埼玉医科大学　消化器内科・肝臓内科　教授　持田 智

閉会の辞　愛媛大学医学部附属病院　薬剤部　教授・薬剤部長　荒木 博陽

終了報告

持田先生は、厚生労働省の研究班「がん化学療法及び免疫抑制療法中のB型肝炎ウイルス再活性化予防対策法の確立を目指したウイルス要因と宿主要因の包括的研究」の代表を務め、全国で起こった化学療法後のB型肝炎の集計とその対策にご尽力されている肝臓専門医です。本講演会では、ご自身の施設でご経験されたB型肝炎の再活性化死亡例を提示され、化学療法施行時に注目すべきHB抗体やその力価の解釈を、分かり易く解説されました。特に、化学療法施行時のHBV-DNA: 2.1log copy/ml以上は要治療例である事、HBV治癒例と判断される患者さんでも、HBc-Abが11以上の症例は、化学療法施行時に慎重な経過観察が必要である事を述べられました。こう言った具体的な症例提示と現在の知見を通じ、HBV抗体陽性者の化学療法を考える貴重な講演会となりました。

岡山 第9回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日　時：平成26年9月10日（水）　19:00～20:30
場　所：岡山大学病院入院棟11Fカンファレンスルーム（11H）
参加者：6名

座長　岡山大学病院医療技術部　放射線部門　青山 英樹
■「Khan's Lectures（Chapter 13）」
岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書（Khan's Lectures）を取り入れた内容を企画しました。
今回のセミナー講義ではChapter13を中心に、治療計画照射野の設定、表面線量、照射野の重ね合わせについて講義がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、社会人にも参加頂いており、放射線治療の国際標準に関心を示せるような環境構築に有用であると考えています。

岡山 第3回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー(放射線診断)

日　時:平成26年9月17日(水)　19:00～20:30
場　所:岡山大学病院入院棟11Fカンファレンスルーム(11C)
参加者:21名

座長　岡山大学病院医療技術部　放射線部門　赤木 憲明
■「阪神淡路大震災より20年。日本の災害医療とDMAT、その中での診療放射線技師の活動について」
兵庫県災害医療センター／神戸赤十字病院　放射線科部　診療放射線技師　宮安 孝行 先生
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、阪神淡路大震災より20年。日本の災害医療とDMAT、その中での診療放射線技師の活動についてと題し、神戸赤十字病院の宮安孝行先生より講義して頂きました。
セミナーでは、阪神淡路大震災を契機として、DMATが整備されてきた背景とともに、DMAT隊員の育成、東日本大震災における活動を中心に講義して頂きました。災害医療に関する講義はこれまで開催されてなかったため、非常に有意義であり、大学院生、社会人らが熱心に話を聞く姿勢が見られました。

岡山 第1回 がん薬物療法専門医ＷＧ

日　時:平成26年9月27日(土)　7:00～
場　所:パシフィコ横浜　会議センター4階　小会議室422

議題
1.本年度がん薬物療法専門医試験受験者について
2.ポートフォリオの進捗状況について
3.中四国がんプロGlobal Oncology Seminarについて
4.夏季がんプロチーム医療合同演習について（報告・次回の予定）
5.その他

山口 第5回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー EBMセミナー

日　時:平成26年9月29日(月)　18:00～19:00
場　所:山口大学医学部総合研究棟8F　多目的室
参加者:18名

■EBM研究
山口大学大学院医学系研究科　臨床薬理学分野
教授　古川 裕之 先生

終了報告

この度、「EBM研究」と題して、山口大学大学院医学系研究科臨床薬理学分野教授の古川裕之先生に講演いただいた。
内容は、臨床研究の実施環境、臨床研究に関する倫理、利益相反、患者の診療情報管理等についてであった。最近では臨床研究をめぐる、いろいろな不適切な出来事が明らかになり、世の中には「知らなかった」ではすまないことがある。求められていることを学んでほしいと強調された。
出席者からは、「臨床試験に関わるときのために引き続き勉強していきたい」「倫理手続きをきっちりすることで悲劇を防ぐことができる」「勉強になった」との声があった。

岡山 第1回 岡山大学医学物理士コースFDセミナー岡山大学医学物理士インテンシブコース

日　時:平成26年10月3日(金)　19:00～21:00
場　所:岡山大学病院管理棟6F第7カンファレンスルーム
参加者:21名

開会の挨拶

シンポジウム
座長　笈田 将皇(岡山大学大学院保健学研究科)
■「中四国地区の放射線治療状況と地域連携に向けての課題」
演者：青山 英樹(岡山大学病院)、佐々木 幹治(徳島大学病院)
本田 弘文(愛媛大学医学部附属病院)、川村 慎二(山口大学病院)
長瀬 尚巳(川崎医科大学附属病院)

教育講演
座長　岡山大学病院医療技術部　放射線部門　青山 英樹
■「高精度放射線治療における幾何学的精度の保証 ーレーザー照準器からIGRTまでー」
名古屋大学大学院医学系研究科　加茂前 健
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、中国四国地区大学病院および市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、放射線治療状況と地域連携に向けての討論会および講演会を企画した。
シンポジウムでは、各地域の放射線治療の現状を確認し、今後の放射線治療体制整備および人材育成の解決に向けて積極的に議論を交わした。
また教育講演では臨床向けのテーマとして高精度放射線治療の管理手法に関する内容を名古屋大学の加茂前先生に講演していただいた。短い時間だったが、非常に有意義な議論と講演会となり盛況理に終わった。

岡山 第11回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日　時:平成26年10月8日(水)　19:00～20:30
場　所:岡山大学病院管理棟6F第7カンファレンスルーム
参加者:7名

座長　岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
■「Khan's Lectures(Chapter 14B)」
岡山中央病院　放射線がん治療センター　中山 真一
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Khan's Lectures)を取り入れた内容を企画した。
今回のセミナー講義ではChapter14Bを中心に、電子線治療計画の設定，表面不整形や斜入射の影響、照射野のつなぎ、全身皮膚照射等について講義がなされた。大学院相当の内容にもかかわらず、社会人にも参加頂いており、放射線治療の国際標準に関心を示せるような環境構築に有用であると考える。

山口 第6回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー がん患者とリハビリテーションセミナー

日　時:平成26年10月9日(木)　17:30～19:00
場　所:山口大学医学部霜仁会館3階　多目的室
参加者:19名

司会:山口大学大学院医学系研究科保健学系学域　臨床看護学分野
教授　齊田 菜穂子 先生

■「がん患者の嚥下訓練について」
山口大学医学部附属病院　リハビリテーション部
言語聴覚士　河本 哲 先生

終了報告

この度、「がん患者の嚥下訓練について」と題して、山口大学医学附属病院リハビリテーション部言語聴覚士の河本哲先生に講演いただいた。
講演では、言語聴覚士の役割、摂食嚥下の流れ、摂食嚥下の訓練内容、当院の摂食嚥下チームの活動、症例紹介等について話された。
また、普段行っている訓練を参加者が体験する簡単な実技があり、摂食嚥下の評価や患者の状況について理解を深めることができた。最後に、患者の嚥下機能の低下において、身近な医療者による早期発見が、早期回復につながるため、小さなことでも気づきがあれば、言語聴覚士(ST)に相談してほしいと述べられた。

山口 第7回 がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー がん緩和治療セミナー

日　時:平成26年10月14日(火)　18:00～20:00
場　所:山口大学医学部霜仁会館3階　多目的室
参加者:38名

司会:山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学
助教　鈴木 伸明 先生

■講演Ⅰ:がん緩和治療-疼痛マネジメント
山口大学医学部附属病院　腫瘍センター
助教　松元 満智子 先生

■講演Ⅱ:がん緩和治療-精神腫瘍学
山口大学医学部附属病院　精神科神経科
講師　松原 敏郎 先生

終了報告

この度、「がんの緩和治療ー疼痛マネジメント」と題して、山口大学医学部附属病院腫瘍センター助教の松元満智子先生の講演があった。緩和医療学総論、疼痛マネジメント薬物療法等について話され、がん緩和治療には早期からの緩和ケア導入の重要性、患者への病状説明における患者と医療者との信頼関係の重要性について話された。
次に、「がん緩和治療ー精神腫瘍学」と題して、山口大学医学部附属病院精神科神経科講師の松原敏郎先生の講演があった。がん患者の心理特性、がん患者とのコミュニケーションについて話され、がんは死を意識してしまうものであり、告知して欲しいかどうかの意思決定は患者にある。患者の心の最前線は主治医であるため、顔の見える医療者との関係が大事であると話された。

川崎 インテンシブ生涯教育コース

川崎医科大学附属病院がんセンター　第10回Oncology Seminar合同講演会
テーマ:がん化学療法看護の変遷～治療に携わる看護師の役割とは～

日　時:平成26年10月18日(土)　13:30～16:00
場　所:川崎医科大学校舎棟　7階M-702教室
参加者:162名

司会:川崎医科大学附属病院　看護副部長　平松 貴子
座長:川崎医科大学　臨床腫瘍学　講師
川崎医科大学附属病院　臨床腫瘍科　医長　澤木 明
川崎医科大学附属病院　看護主任　笹本 奈美

■①治療期の看護としてのがん化学療法看護
ー領域が形成されたchemotherapy時代から学ぶことー
●殺細胞性薬剤が使用されていたころの看護師の役割
●がん化学療法看護認定看護師が誕生するに至った経緯
日本看護協会　神戸研修センター　教育研修部長　足利 幸乃

■②分子標的治療薬の誕生でがん化学療法看護はどのように変わったか
●分子標的治療薬のトピックス
●治療に携わる看護師の役割
日本看護協会　神戸研修センター
がん化学療法看護認定看護師教育課程　主任教員　菅野 かおり

終了報告

メディカルスタッフ(特に院内看護師)のがんについての基本的な知識習得をする目的で、がんセンターと合同で開催された。
今回は、テーマを、「がん化学療法看護の変遷～治療に携わる看護師の役割とは～」とし、「治療期の看護としてのがん化学療法看護ー領域が形成されたchemotherapy時代から学ぶことー」「分子標的治療薬の誕生でがん化学療法看護はどのように変わったか」について、殺細胞性薬剤が使用されていたころの看護師の役割、がん化学療法看護認定看護師が誕生するに至った経緯、分子標的治療薬のトピックス、 治療に携わる看護師の役割について知識を深める講演が行われた。

岡山 第4回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー(放射線診断)

日　時:平成26年10月29日(水)　19:00～20:30
場　所:岡山大学病院管理棟6F第7カンファレンスルーム
参加者:12名

座長　岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇

■「鳥取大学病院の2大トピックス　ーロボット手術とトモシンセシスー」
鳥取大学医学部附属病院　放射線部　福井 亮平 先生

■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、鳥取大学病院の2大トピックスーロボット手術とトモシンセシスーと題し、鳥取大学医学部附属病院の福井亮平先生より講義して頂きました。鳥取大学におけるダビンチ導入と現況について紹介頂き、また、新しいエックス線断層撮影装置であるトモシンセシスについて、実際の臨床応用から基礎特性に関する福井先生の研究内容にいたるまで幅広く講義して頂きました。

山口 第4回 がん市民公開講座 看護師といっしょに考える

テーマ：気になる「乳がん」のお話

日　時：平成26年10月25日（土）　13:00～15:00
場　所：宇部市シルバーふれあいセンター
参加者：150名

■相談コーナー（血糖測定、血圧測定、栄養相談、患者相談等）
■特別講演：よくわかる乳がんの検査から治療まで
山口大学医学部附属病院　第2外科　講師　山本 滋 先生
■講演1：乳がんについて一緒に学びましょう！！
山口大学医学部附属病院　乳がん看護認定看護師　本田 紫子 先生
■講演2：リンパ浮腫の予防とケアについて
山口大学医学部附属病院　副看護師長　角谷 博美 先生
■講演3：乳がんの治療について～患者の立場を通して～
あけぼの会　木藤 登紀子 先生
■講演4：がんと診断された時からの緩和ケア
山口大学医学部附属病院　腫瘍センター　松元 満智子 先生
■乳がん検診（要予約、（対象者：宇部市在住40歳以上の方））

終了報告

この度、「乳がん」をテーマに医師、看護師、がん患者らによる市民を対象とした市民公開講座を開催した。講師には、「よく分かる乳がんの検査から治療まで」と題して山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学講師の山本滋先生、「乳がんについて一緒に学びましょう！！」と題して山口大学医学部附属病院乳がん看護認定看護師の本田紫子先生、「リンパ浮腫の予防とケアについて」と題して山口大学医学部附属病院副看護師長の角谷博美先生、「乳がんの治療について～患者の立場を通して～」と題してあけぼの会の木藤登紀子先生、「がんと診断された時からの緩和ケア」と題して山口大学医学部附属病院腫瘍センター助教の松元満智子先生がそれぞれ講演を行った。

講演では、定期的な検診による早期発見・早期治療の重要性や術後のケアについて話され、女性を中心に150名の参加者があった。講演前には健康相談コーナーが設けられたほか、40歳以上を対象とした乳がん検診も行われ、盛会であった。

山口 第1回 腫瘍外科医WG

日　時：平成26年10月31日（金）　16:00～17:00
場　所：岡山大学病院総合診療棟5F第5カンファレンスルーム

議題
1．前回の議事要旨について
2．外部評価について
3．養成人数、専門医等について
4．手術コンテンツについて
5．ロボット手術について
6．その他

山口 第1回 eラーニングWG

日　時：平成26年10月31日（金）　17:00～18:00
場　所：岡山大学病院総合診療棟5F第5カンファレンスルーム

議題
1．前回の議事要旨について
2．コンテンツについて
3．アクセス数について
4．英語のコンテンツについて
5．ＧＦＤについて
6．学生アンケートについて
7．予算について

岡山 第10回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日　時：平成26年11月5日（水）　19:00～20:30
場　所：岡山大学病院総合診療棟5F第4カンファレンスルーム
参加者：8名

座長　岡山大学大学院保健学研究科　笈田 将皇
■Khan' s Lectures（Chapter 14A）
岡山中央病院　放射線がん治療センター　中山 真一
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書（Khan's Lectures）を取り入れた内容を企画した。今回のセミナー講義ではChapter14Aを中心に、電子の相互作用、阻止能、散乱能、吸収線量測定、臨床での応用例について講義がなされた。大学院相当の内容にもかかわらず、社会人にも参加頂いており、放射線治療の国際標準に関心を示せるような環境構築に有用であると考える。

高知 第3回 インテンシブコース（在宅がん医療・緩和医療）在宅がん医療講演会

日　時：平成26年11月7日（金）　18:30～20:00
場　所：ザ クラウンパレス新阪急高知　4階　フローラ
参加者：93名

司会　高知大学医学部医療学（公衆衛生学）講座　宮野 伊知朗
■「高齢者、がん患者への栄養サポート
～京都での多職種地域連携の試み～」
愛生会山科病院　外科
京滋摂食・嚥下を考える会　代表世話人　荒金 英樹 先生

終了報告

本講演会では、一般社団法人愛生会山科病院の医師であり、京滋摂食・嚥下を考える会代表世話人でもある荒金英樹先生を講師としてお招きし、「高齢者、がん患者への栄養サポート～京都での多職種地域連携の試み～」というテーマで、講演いただいた。

参加者からは、「初めての参加でしたが、参加できてよかったです。こんな機会でないと、知ることのできない知識、多職種との情報交換など、自身のスキルアップへの後押しとなりました。」や「今後はすぐに専門職種に投げるのではなく、自身も関わり多職種連携に力を入れていこうと思います。」などの感想があった。

Participation university

参加大学

Consortium　Member

川崎医科大学
Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012

岡山大学
Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984

広島大学
Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538

香川大学
Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074

山口大学
Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
高度実践看護師(がん看護)コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058

徳島文理大学
Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111

愛媛大学
Ehime University

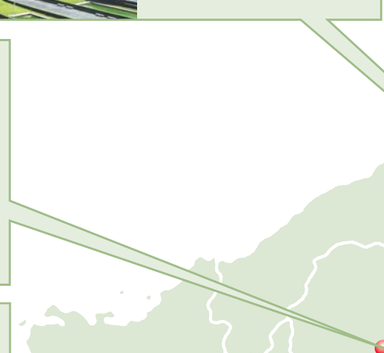
臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868

徳島大学
Tokushima University

臨床腫瘍内科学コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科学コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009



高知県立大学
University of Kochi

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580

高知大学
Kochi University

臨床腫瘍医内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍医外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム　Vol.42

□ 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086－235－7023　info@chushi.ganpro.jp

□ 印刷所
有限会社 ファーストプラン